

プロジェクト【TSネットワーク】中間報告

目的

本プロジェクトは、平成17年度から試行的に実施している「TAを活用した授業」の実施結果を検証し、その効果測定をおこない、全学的なTA制度の導入等を検討することを目的としている。また、授業支援SA(スチューデントアシスタント)制度について、問題点を明らかにし、改善施策を取りまとめる。

● 授業支援SA制度について



SA研修会(平成20年度春学期)

教務センターの設立とともに授業支援SA制度が導入され各学舎において運用されている。授業支援SAは授業の教育効果を高めるために、担任者が授業運営において行わねばならない軽微な業務を主に行う。短い休憩時間にプロジェクターの設置

や配付資料のセット等の授業準備に追われていた教員からは概ね良い評価をいただいているが、授業支援SAにどこまで依頼できるのかが分からない等の戸惑いの声も寄せられていた。そのため本プロジェクトでは、『授業支援SA活用のガイドライン』および『授業支援SAを活用するにあたっての留意事項』を策定し全教員へ配付する等、積極的に広報活動を行った。また、授業支援SA研修制度の検討を行い、全体研修に加えて、初級・上級等の階層別研修や学舎別の研修を実施している。



授業支援SA 活用のガイドライン

● TA制度について

TAの制度化についてはやや検討が遅れ、従来の試行的な運用を継続的にやっている。TA制度の輸入元であるアメリカの先進的な事例を調査し、国内にある他大学への実施視察等を行ったが、大学の規模や目的、学生・大学院生・

教員の構成比率、設置形態等の差もあり、画一的なTA制度は存在せず、各々の大学に合った制度を手探り状態で行っていることを再確認した。本学の学部教育をより充実させるために教育プログラムに合った独自のTA制度について、引き続き検討が必要と考えている。

● その他の成果

授業支援SA制度を検討・運用していく中で、新たな可能性とニーズを発掘することができた。それは、全学共通科目「スタディスキルを身につける」等の初年次科目において、過去に受講した経験をもつ学部生を授業の中で活用することであった。我々はこの学生をLA(ラーニングアシスタント)と位置づけた。このLAは、初年次学生にとっては、ほぼ同年齢の学生が能動的に学習している姿を示すラーニング・モデルであり、学習の支援を担うファシリテーターであり、スキルを身につけた自らの成長の軌跡を伝えるメッセンジャーとして活躍している。

なお、この新たなLAを中心とした本学の取組「三者協働型アクティブ・ラーニングの展開」は、平成21年度文部

科学省の大学教育推進プログラムに採択された。



「スタディスキルを身につける」の授業でファシリテートするLA

● 今後の課題

本プロジェクトの今後の課題は、本学の教育を支援するTA・LA・SAそれぞれの役割を明確にした上で制度設計

を行い、各教員が共通の認識のもと積極的に活用していただけるよう学内広報を行う必要がある。